教育出版株式会社

中学校社会科資料

こんな実践

あんな実践

小・中連携と発展的な活動のために

小・中社会科の系統的な接続・連携と指導のポイント …p.02

地理
①見通しと小学校の振り返り …p.04
②発展しつながる学び …p.06

歴史
①小学校の技能を伸ばす …p.08
②小学校の学習内容とつながる …p.10

公民
①メディア活用とリテラシー …p.12
②SDGs の視点で行動へ …p.14

小・中社会科の系統的な接続・連携と指導のポイント

教育出版の中学校の社会科教科書では、三分野とも教科書の巻頭に小学校の社会の学習を振り返るパートを設けるなど､小学校からの円滑な接続を意識しています。さまざまなテーマの系統的な接続や、写真や図版資料などコンテンツの連携について、ぜひ解説資料をご覧いただき、ご理解を深めていただければ幸いです。授業でもどうぞご活用ください。

社会科教育が目ざす最終的な目標は、「公民的資質の基礎を養う」ことです。学習指導要領でも、“社会的な見方・考え方”を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること、そして、そのことから他人事ではない主体的な学びを実現するとともに、関心をもって、社会に参加しようとする意欲を育てることがさらに強調されています。

ここでは、その公民的資質を培う単元として、小学校・中学校での政治学習の具体例を挙げながら、小・中で連携することで生まれる学びのあり方について考えてみたいと思います。

01 小学校における取り組み

(1) 指導計画の工夫

小学校の社会科においても、授業時数は限られています。本来であれば、すべての単元で時間をかけて問題解決型の学習を展開するのが望ましいですが、現実的にはなかなか難しいでしょう。特に６年生の社会科は、歴史学習に力点が置かれがちで、政治学習の展開には工夫がなされていないことが多いです。しかし、先に述べたように「公民的資質」を育てるためにも、自分の身のまわりの社会に目を向け、そこから政治や人権についての学習をじっくり展開できるとよいでしょう。指導計画の作成にあたっては、「公民的資質」を育てるという観点にたち、柔軟な発想で一年間の見通しを立てることが大切です。

(2) 小・中一貫の学習テーマ　～「みんなが幸せに生きることができる社会を目ざして」

小・中一貫の学習を考えたとき、小・中で共通した大きなテーマを設定し、そのテーマに関わる個別の課題について学習を通して追究していくことが望ましいでしょう。その際、知識として用語を覚えることを目ざすのではなく、さまざまな資料を活用したり、地域社会で活躍する人々から話を聞いたりして、社会の一員としての自分の考えを、友だちと意見交換しながら深めていく学習を目ざしたいと考えます。ここでは一例として、公民的な内容の学習を「みんなが幸せに生きることができる社会を目ざして」という大きなテーマで括り、さらに、具体的な課題として「男女共同参画社会」を取り上げて、学習を展開してみましょう。

01 の実践例を p.16（裏表紙）に掲載しています！

中学校における取り組み 02

(1)　中学校における課題

小学校に比べ、中学校は学習内容がさらに多くなります。しかも、高校入試に向けてより多くの知識を習得することが優先されてきたため、「中学校では問題解決的な学習ができない」という声を多く聞きます。

しかし、いつまでもそこに留まらずに、主体的な学びや協働的な学びを生み出していくことを目ざしていきたいと思います。学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が重視され、学習指導の転換・充実が求められています。中学校においても、問題解決的な学習に重点的に取り組む単元を、積極的に設定していくことが大切でしょう。

(2)　具体的な問題をみんなで考える～自分のこととして社会を見つめる視点を育てる～

小学校でも、地域社会の人にインタビューして、感じたり考えたりしたことを話し合う場を設けましたが、中学校ではそれをさらにステップアップして実践することができたらと思います。

中学校では、「男女共同参画社会」について歴史的な側面から考えられるような資料を用意し、その読み取りの中から生徒たちの問題意識を高めていきたいと思います。戦後 75 年以上が経ちましたが、その僅か 75 年前まで女性に参政権が認められていなかったことは、多感な時期の中学生にとって「なぜ、その当時の女性たちは、それでも黙っていたのだろうか」という強い疑問にもなるでしょう。

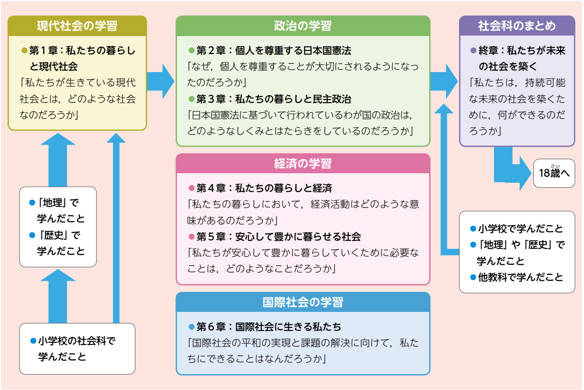
そうした当時の社会の背景にある封建的な考え方や通念を知ることで、現代にも残る「男は仕事、女は家事」といった風潮の根底に流れているものをとらえることが大切です。これらの事実を知ることで、これから自分たちが生きていく社会のできごとを自分自身のこととしてとらえ、よりよい方向について生徒が主体的に考えていけるよう、学習を展開していくことが重要でしょう。

▶▶▶▶　02 の実践例を p.16（裏表紙）に掲載しています！
ぜひご活用ください！　▶▶▶

03 つなぐための手立て

小・中学校の教員が、学期に一度は互いの授業を見学したり、授業後には授業研究会を開いて交流し合ったりすることで、それぞれの授業の様子を知るとともに、それぞれが大切にしていることを学び合う場をもつことが重要です。

特に「公民」の学習内容については、小学 6 年生で学習した後、次に学ぶ機会は中学 3 年生になります。3 年の期間をはさんでの実践には、事前の打ち合わせのみならず、発達段階に応じてどのように問題解決的な学習を進めるか、互いに意見を出し合ってすり合わせる必要があるでしょう。そうした意味では、校種を超えた教科研究会の場を設けることも、非常に大切な手立てとなるでしょう。社会科特有の学びのあり方を探ることが大切です。



↑『中学社会　公民』 教科書 p. III
「公民で学ぶ主な内容と学習の見通し」

地理　小・中連携と発展的な活動のために

①中学校の学習の見通しと小学校の学びの振り返りから、安心して学びを始める

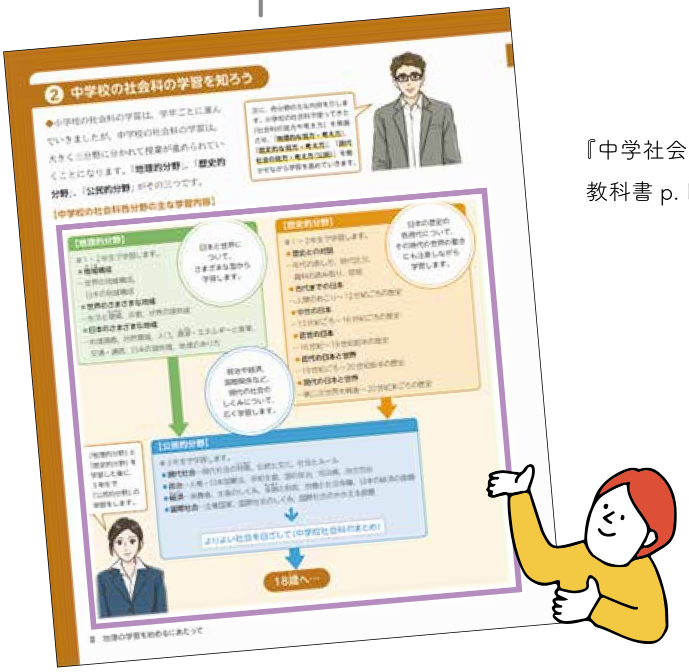
地理的分野の教科書の冒頭に設けた「地理の学習を始めるにあたって」では、中学校で学習する社会科三分野の主な学習内容を概観して、見通しを持つことができるようにしています。

小学校の社会から、三分野に分かれて学習する中学校へと移り変わることで何が変わるのか、ガイダンスの役割となるページを設けて、生徒の学習に向かう意識を高めていきます。

◆中学校の社会科と地理的分野の見方・考え方

中学校の社会科三分野は独立しているのではなく、**互いに関連した学び**となっていることを、生徒が意識できるようにしています。

「**地理的な見方・考え方**」を紹介し、授業中、常にこれを「**働かせる**」習慣が身につくようにしています。



↑『中学社会　地理』教科書 p. Ⅲ

『中学社会　地理』→ 教科書 p. Ⅳ

教科書の冒頭で「**持続可能な開発目標**」を紹介し、SDGs の 17 の目標の全体像がとらえられるようにしています。

◆地球的課題と SDGs

第 2 編・「第 2 章　世界の諸地域」では、世界を六つの州に分けて学習していきます。各州の導入ページでは、それぞれに特有の「**地球的課題**」を示し、本時の学習で **SDGs に示された 17 の目標**と関連づけながら課題に迫っていきます。

> **アジアで学習する地球的課題**　●人口問題
>
> 世界中で人口をめぐり，さまざまな問題が起こっています。中国では人口が多いことが問題となり，それを解決するために人口を抑制する政策が進められてきました。一方で，日本やヨーロッパの国々のように，人口の減少や高齢化に悩む国もあります。各地でどんな人口問題が生じているのか，どんな工夫でそれを解決しようとしているのか，考えていきましょう。
>
> 中国を例に　p.54-55→

〈地球的課題・ラインナップ〉

◇人口問題（アジア州）	p.54-55
◇環境問題（ヨーロッパ州）	p.76-77
◇人口・食料問題（アフリカ州）	p.87-89
◇多民族の共存の問題（北アメリカ州）	p.100,102-103
◇環境・都市問題（南アメリカ州）	p.111-115
◇多民族の共存の問題（オセアニア州）	p.121,123-125

↑『中学社会　地理』教科書 p.49・アジアで学習する地球的課題「人口問題」…本時 (p.54-55)

◆小学校の学びを振り返る「地理にアプローチ」

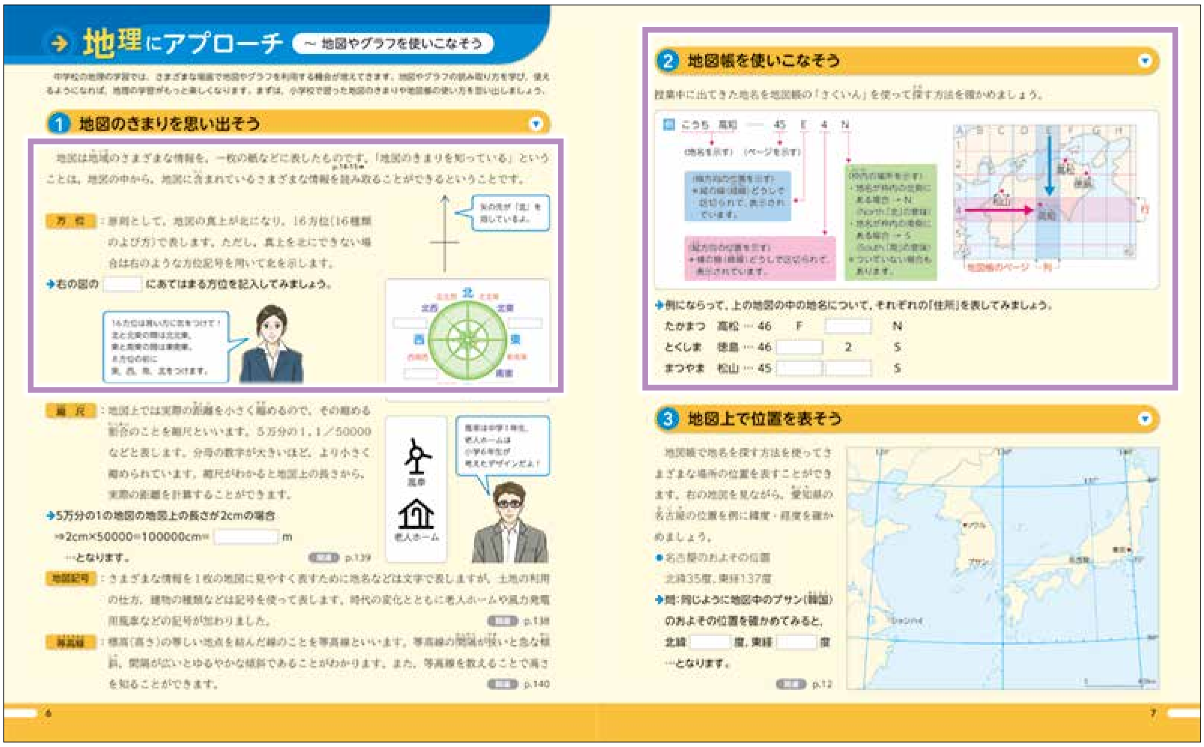
「地理の学習を始めるにあたって」の後に、小学校の学びと連携を図る「**地理にアプローチ**」を設けています。小学校の復習として、地図のきまりや地図帳の使い方などを紹介し、さらに、これから始まる地理的分野の学習に不可欠な技能として、ぜひ身につけたい学習内容を掲載しています。

↑『小学社会　3』教科書 p.9(左)、21(右)

↑『小学社会　3』教科書 p.167

同じ単元を
中学校で学ぶと…

↓『中学社会　地理』教科書 p.6-7



授業でのワンポイント活用

「**地図のきまり**」や「**地図帳を使いこなそう**」については、これから始まる地理学習の前に、授業開きなどで押さえておきたい内容として扱いました。小学校の学習を振り返りつつ、地理の学習を始める際にご活用ください。

「**地図上で位置を表そう**」を学習することで、緯度・経度の学習と関連づけることができます。本時 p.12 の「地球上の位置の示し方」の学習にリンクする内容です。

小・中連携と発展的な活動のために

地理

②小学校の学びが発展し、中学校の学びにつながることを生徒が意識できる

小学校の社会の学習内容や事例地などが中学校の「地理」でも登場し、深化、あるいはスケールアップしつつ、連携しながら学習が進んでいきます。小学校で一度学習したことがある内容を生徒が思い出し、中学校の学習とのつながりを意識することや、学習内容の深化を教員が把握することで、よりスムーズな授業の進行が可能になります。

◆地図記号や新旧地図の比較・読図など、中学校で深まる地理的技能と連携

←『小学社会　3』教科書 p.40-41

小学校での等高線から高さの違いを読み取る学習から、中学校の「地理」では、**断面図の作成へと地理的技能も発展**していきます。

『中学社会　地理』教科書 p.138 ↓

←『中学社会　地理』教科書 p.141

小学校で学習した地図記号について、中学校の「地理」では実際の地形図や地理院地図上で確認しながら、**さまざまな情報を読み取る学習**へと発展します。

新旧地図の比較も、「地理」では地理院地図や今昔マップなどの**ウェブサイト上の地図コンテンツを使用した学習**へと発展します。

◆同じテーマを多面的・多角的な視点から考察

小学校の社会では東日本大震災の発生から、避難、復興までを取りあげています。これに対して中学校の「地理」では、震災の発生や復興を取りあげるだけでなく、**経験の継承や防災への取り組みにも**焦点をあてることで、教材を通じた**防災意識の啓発と高まり**を目ざしています。

◀ 震災の発生

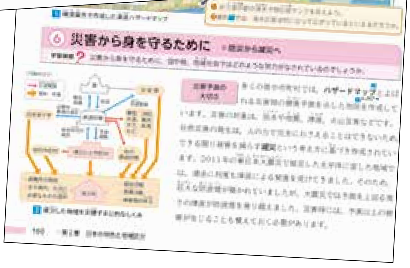
避難と支援 ▶

◀ 復興とまちづくり

↑『小学社会　6』教科書 p.48-55

◀ 震災の伝承と経験の継承

防災、減災への取り組み ▶



↑『中学社会　地理』教科書 p.256（左）、160（右）

◆身近な地域を調査する学習にみる発展

小学校の社会では、石碑から地域の成り立ちについて学習を重ねていきますが、「地理」の「**地域調査の方法を学ぼう**」では、実際に地域を歩いて生徒たちが発見した地域の姿や疑問から調査を進め、調べたことを主題図やグラフ、イラストマップなどにまとめ、発表会で報告します。

↑『小学社会　4』教科書 p.153

↑『中学社会　地理』教科書 p.145

授業でのワンポイント活用

防災は三分野で、身近な地域の調査は地理と歴史で扱います。カリキュラムマネジメントを意識しつつ、分野間で比較、連携してご活用ください。

歴史

小・中連携と発展的な活動のために

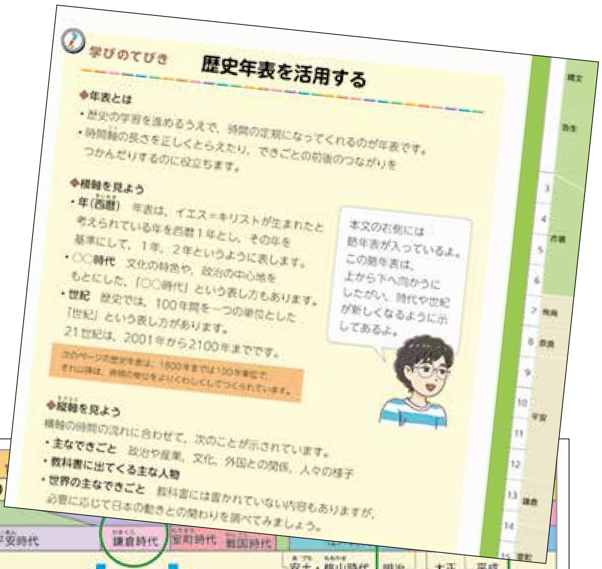
①小学校で習得した技能を振り返り、伸ばす歴史学習

小学校６年生の社会科では、人物や文化財を中心に歴史を学んできました。中学校ではより幅広く、政治や経済、社会、文化の動きについて、その背景となる世界史の事象も含めて学習します。中学校の歴史学習をより楽しく進めていくためにも、中学校の学習内容を、小学校の社会で学んだ内容や学習方法と結びつけることができるように工夫しています。ここでは、小学校で習得した**技能**を思い出す「歴史」教科書のページを紹介します。

◆年表の見方を振り返る

年表の見方は、小学校でも学習します。中学校では、基本的な年表の見方を復習するとともに、さらに内容を広げて古代・中世といった大まかな時代区分や年号（元号）についても学習します。

『小学社会　６』　→
教科書 p.69



↓『中学社会　歴史』教科書 p.4-5

◆小学校で学習した人物を思い出す

中学校「歴史」教科書 p.4-5 では、**小学校学習指導要領で定められた 42 人の歴史上の人物**を、年表に位置づけながら紹介しています。

時代区分や年表の活用を学ぶと同時に、小学校の学習を振り返ることができる構成になっています。

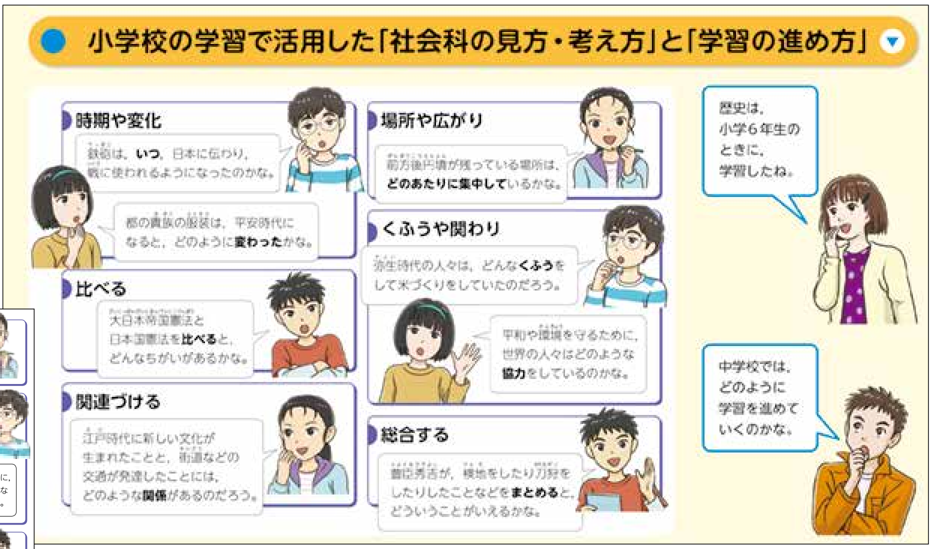
授業でのワンポイント活用

①どのようなことをおこなったか思い出せる人物に、印をつけさせる。
②年表を読み解きながら、それぞれの人物が何時代に位置づいているか考えさせる。
③肖像画や写真を提示し、どの人物の肖像画や写真か当てさせる。
④それぞれの人物を、大まかな時代やさくいんを参考に、教科書の中から探させる。

◆小学校で活用した見方・考え方を振り返る

小学校で学習した**見方・考え方**を再掲し、小学校の学習を振り返ることができるようになっています。

小学校の紙面を使って作っているページも！！



↑『中学社会　歴史』教科書 p.7

↑『小学社会　6』教科書 p.3

◆小学校で習得した技能を伸ばす

↓『小学社会　6』教科書 p.69

小学校の社会では、子どもたちの興味を呼び起こしたり、子どもたちが当時の様子を身近に感じたりすることができるように、イラスト（想像図）や絵画史料などを多く掲載していました。

中学校では、そういった画像資料に加え、新聞や地図、系図、文章の資料なども活用して、より**多面的・多角的**な考察をします。「歴史」教科書では、いろいろな種類の**資料の読み解き**のコツを、教科書冒頭や初出の図版で解説しています。

↑『中学社会　歴史』教科書 p.22-23

←『中学社会　歴史』教科書 p.8

小・中連携と発展的な活動のために

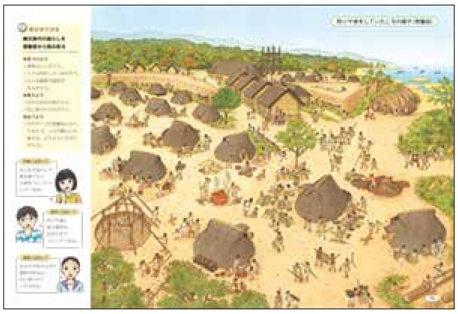
歴史

②小学校の学習内容とつながる歴史学習

小学校で学んだ歴史の内容をもとに、子どもたちが中学校の歴史学習をスムーズに始め、続けられるように工夫しています。ここでは、その一部をご紹介します。

◆イラストを活用した内容学習のスタート

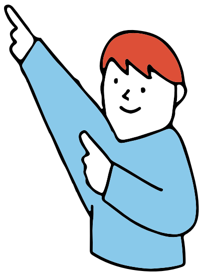
「歴史」教科書は、「**第２章　原始・古代の日本と世界**」で実際の内容の学習が始まります。小学校とのギャップを少なくし、楽しく歴史学習を始められるように、小学校の教科書にも掲載されているイラストを使って、**章の導入**の活動を設定しています。



↑『小学社会　６』教科書 p.75、86

↓『中学社会　歴史』教科書 p.18-19

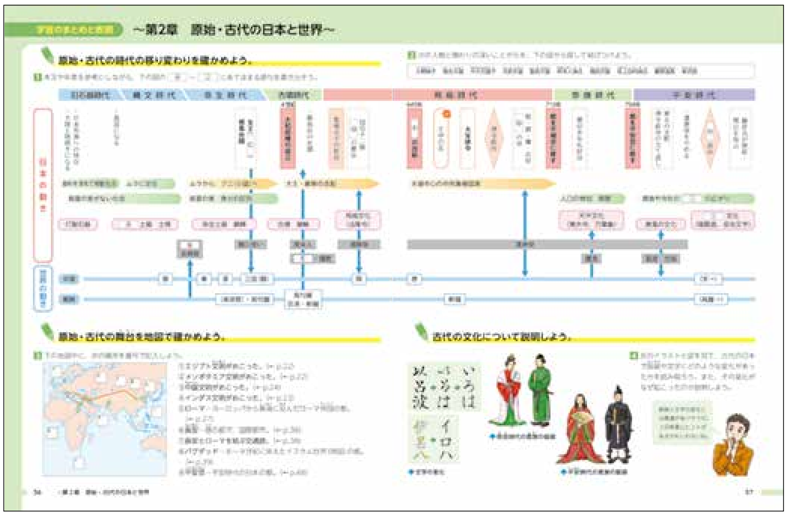
小学校の学習を振り返りながら、歴史学習に必要な**見方・考え方**や「**時代の見通し**」を培うことができます。



Q1 「縄文時代の人々」と「古墳時代の人々」の想像図には，何をしている人が描かれているでしょうか。
Q2 縄文時代と古墳時代の器や像を比べると，どのような点が違っているでしょうか。また，なぜ変化したのでしょうか。
Q3 縄文時代から古墳時代にかけて，社会はどのように変化したのか，予想してみましょう。

資料の読み解きのポイントを、問いの形で示しています。
順番に問いに答えていくと、時代を見通す視点につなげることができるようになっています。

◆子どもの思考の流れを意識した「学習のまとめと表現」

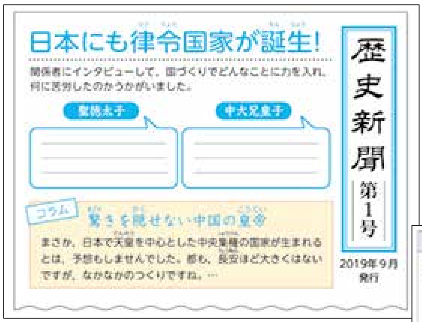


各章末に設けられた「**学習のまとめと表現**」では、章の学習を振り返り、時代の概観を自分なりに表現する活動を設定しています。

時代を一望できる年表で基本的な事項をおさえたうえで、段階を追って自分の考えを深められる構成になっています。

←『中学社会　歴史』教科書 p.56-57

時代を概観する活動は、各章でいろいろなテーマ設定や手法を紹介しています。第２章では、小学校での学習の基本となっている「人物」に焦点を当てた「歴史新聞の作成」をテーマにしています。学習が進むにつれ、発達段階に応じて徐々に難しくなるように設定しています。

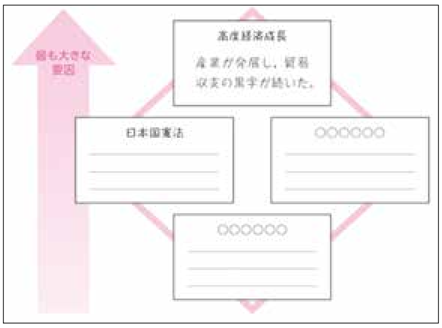


2 章

	古代（例）	中世
政治	・天皇や貴族が中心になり、政治を行う。 ・中央集権的な国家のしくみが整う。	
外国との関係	・遣隋使や遣唐使によって、大陸の文化や技術が伝わる。	
文化	・大陸の文化に影響を受け、仏教が天皇や貴族に重視される。 ・大陸の文化を吸収し、しだいに日本独自の文化が生まれる。	

3 章

7 章



『中学社会　歴史』教科書 p.58、94、288 ↑→

それぞれの「学習のまとめと表現」の最後には、「**時代の変化に注目しよう！**」というコーナーを設けています。これまで学習した時代と次に学習する時代の史料を比較することで、これからの学習への動機づけをし、見通しをもたせる構成になっています。

3 章

4 章

←↑『中学社会　歴史』教科書 p. 94-95

歴史

公民

小・中連携と発展的な活動のために

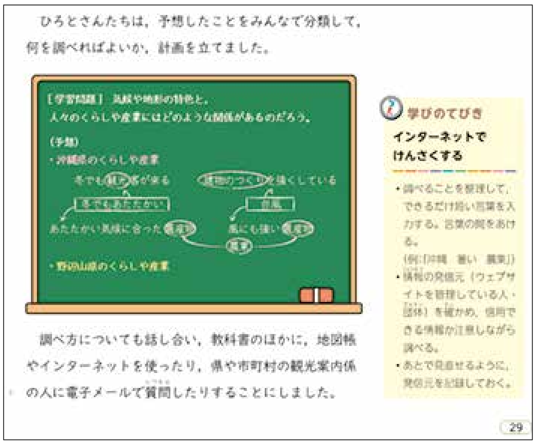
①メディアの活用とメディアリテラシー

中学校の教科書の巻頭には、小学校からの円滑な接続を意識して、小学校の社会の学習を振り返る部分を設けています。「公民」の学習全般にわたって必要となる「**情報収集と活用**」についても、本時の学習だけではなく、巻頭の特集ページで丁寧に扱っています。

◆メディアの活用

小学校５年生の情報単元の学習では、**インターネット**を活用した検索の方法や、情報を伝えるさまざまな**メディア**の特徴について掲載しています。生徒たちの多くは、小学校の時点で、インターネットを利用した基礎的な調べ学習の手法を学んでいます。

↑『小学社会　５』教科書 p.28-29



ひろとさんたちは，予想したことをみんなで分類して，何を調べればよいか，計画を立てました。

［学習問題］ 気候や地形の特色と，人々のくらしや産業にはどのような関係があるのだろう。

（予想）

・沖縄県のくらしや産業

冬でも暖かい

あたたかい気候に合った

風にも強い

・野辺山原のくらしや産業

学びのてびき

インターネットでけんさくする

・調べることを整理して，できるだけ短い言葉を入力する。言葉の間をあける。

・情報の発信元（ウェブサイトを管理している人・団体）を確かめ，信用できる情報か注意しながら調べる。

・あとで見直せるように，発信元を記録しておく。

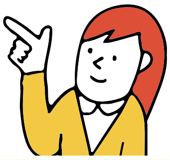
調べ方についても話し合い，教科書のほかに，地図帳やインターネットを使ったり，県や市町村の観光案内係の人に電子メールで質問したりすることにしました。

29

同じ単元を
中学校で学ぶと…

中学校の「公民」では、インターネットだけではなく、新聞やテレビ、ソーシャルメディアなどの各メディアの特色や違いを改めて紹介し、詳しく学ぶことができます。状況に応じて、どのメディアを利用したらよいのかをわかりやすく解説しています。

各メディアの長所・短所を掲載しています。



長所	・幅広く情報を収集しやすい。 ・情報伝達のスピードが速い。 ・災害時でも比較的つながりやすく，緊急時の情報の収集・発信に役立つ。
短所	・情報がかたよっている場合がある。 ・膨大な情報から選ぶ力が求められる。 ・情報の出所や信頼性に注意する必要がある。

学習活動に応じて、利用するメディアの取捨選択がしやすくなります。

メディアの特性の違いを確認できます。

特性ごとにメディアを比べてみよう　～新聞とテレビの例

◆「一覧性」…新聞＞テレビ

→新聞の朝刊には，約20万字（新書で約２冊分）が印刷されています。多くの記事を短時間で概観できることが，新聞の魅力の一つです。

◆「携帯性」…新聞＞テレビ

→新聞は多くの情報量がありながら，朝刊でも約200g（薄い新書で１冊分）と軽く，たためばコンパクトになり持ち運びしやすいです。

←『中学社会　公民』教科書 p.6-7

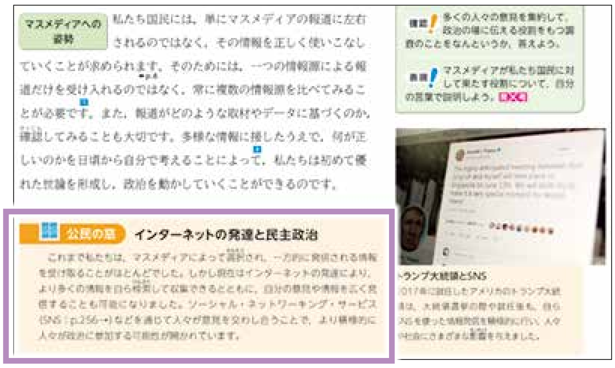
◆メディアの役割について学ぶ

メディアの役割については、小・中ともに重要な視点として取り扱っています。

小学校の社会では、テレビ局や新聞社を例に、情報を扱ううえでの留意点や責任について紹介しています。

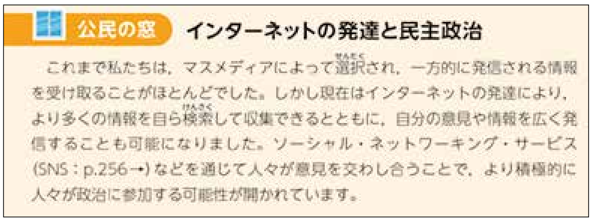
中学校の「公民」では、小学校での学びをさらに広げ、世論とメディアが**民主政治に果たす役割**について考える単元を掲載しています。情報に左右されるのではなく、その情報を正しく使いこなせるように、日ごろから**自分で考える大切さ**について、事例を紹介しながら解説しています。

↑『小学社会　5』教科書 p.178-179


マスメディアへの姿勢

私たち国民には、単にマスメディアの報道に左右されるのではなく、その情報を正しく使いこなしていくことが求められます。そのためには、一つの情報源による報道だけを受け入れるのではなく、常に複数の情報源を比べてみることが必要です。また、報道がどのような取材やデータに基づくのか、確認してみることも大切です。多様な情報に接したうえで、何が正しいのかを日頃から自分で考えることによって、私たちは初めて優れた世論を形成し、政治を動かしていくことができるのです。

↑『中学社会　公民』教科書 p.93


公民の窓　インターネットの発達と民主政治

これまで私たちは、マスメディアによって選択され、一方的に発信される情報を受け取ることがほとんどでした。しかし現在はインターネットの発達により、より多くの情報を自ら検索して収集できるとともに、自分の意見や情報を広く発信することも可能になりました。ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS：p.256→)などを通じて人々が意見を交わし合うことで、より積極的に人々が政治に参加する可能性が開かれています。

◆小学校で習得した技能を伸ばす

簡単で便利に情報を得られる時代になった一方で、誤った情報や偏りのある情報だけを入手してしまう危険性も高まっています。「公民」では、メディアがもつ危険な一面を紹介するだけではなく、収集した情報を批判的に読み取り、検証していく「**クリティカル・シンキング**」の実践例も掲載しています。

実際にあったできごとを紹介し、メディアの問題点について、考えることができます。

メディアリテラシーを学ぼう

マスメディアが報じる「事実」は「真実」か

ソーシャルメディアの影響力

↑『中学社会　公民』教科書 p.94

授業でのワンポイント活用

①キャラクターのセリフを参考にしながら、新聞の記事内で気になる点がないかを各自で考える。
②気になった点をグループやクラスで共有する。
③有権者数と投票率を仮定して、投票数と得票数を計算してみる。（例：有権者数 1000 人・投票率 19％と仮定した場合⇒投票数 190 票、得票数 152 票）
④票数と、記事の書き方から受ける印象を話し合う。（例：1000 人のうち、152 人しか支持していないのに「大半の市民の支持を得た」と言えるのかな。）

（『中学社会　公民』教科書 p.95）

公民

小・中連携と発展的な活動のために

公民

② SDGs の視点で社会の課題を考え、アクションを起こす

社会科の教科書では、教科書の中で扱うさまざまな教材と SDGs との関連が有機的に図られ、より深く「**持続可能な未来**」を意識した学習を進めることが可能です。

現代や過去の社会的事象について、生徒が資料を活用しながら、多面的・多角的に考察することができ、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養うことができます。

◆「持続可能な社会」を学ぶ

↑『小学社会　6』教科書 p.264-265

小学校６年生では、地球環境について学ぶ単元があります。

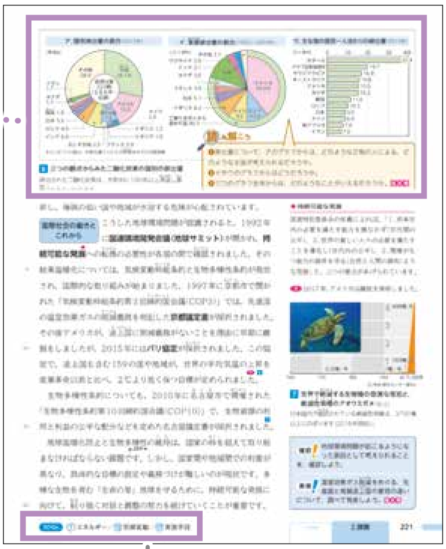
教育出版の教科書では、地球温暖化の問題を取り上げ、温暖化の要因や、その影響などについてわかりやすい言葉で解説しています。また「**持続可能な開発目標**」についても、併せて紹介しています。

中学校の「公民」では、その知識を使って、**課題解決に向けたより深い学び**を目ざすことができます。

同じ単元を
中学校で学ぶと…

↓『中学社会　公民』教科書 p.220-221

資料の読み取りから、課題を捉えられます。



小学校の単元や、他分野とのつながりを知ることができます。

SDGs との関連を知ることができます。

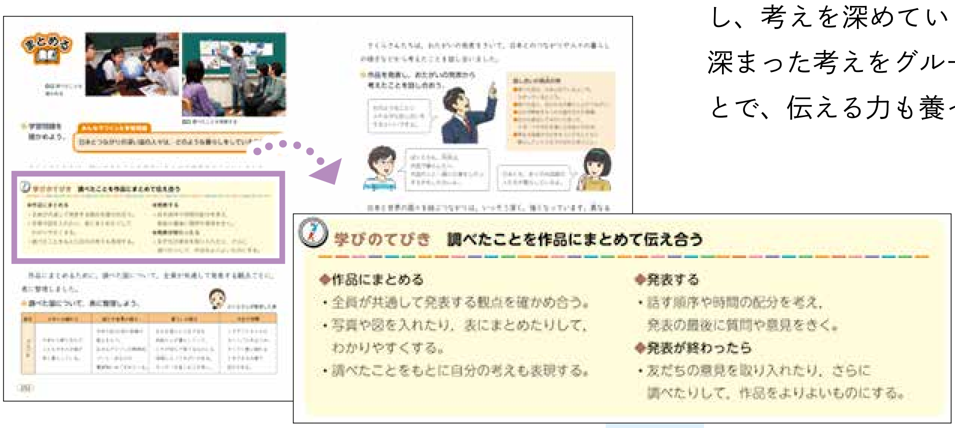
授業での
ワンポイント活用

『中学社会 公民』の教科書では、SDGs のマークがさまざまなページに登場します。

教科書中のどの部分とどのゴールが結びついているのか、授業の中での問いかけとしてもお使いください。

◆考えたことを形にする活動

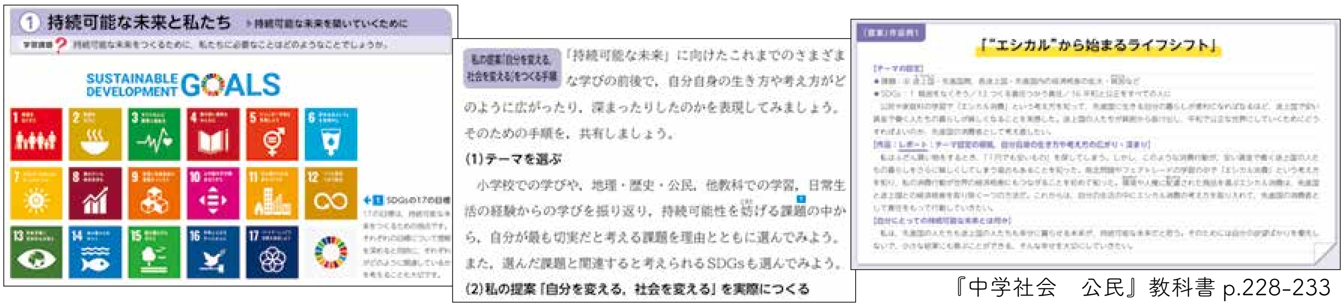
小学校では、調べたことをまとめ、グループで整理し、考えを深めていく活動が行われています。また、深まった考えをグループやクラス内に再び共有することで、伝える力も養っています。



発表する作品のまとめ方、発表の仕方・聞き方、発表後の検証方法については、小学校でも学んでいます。

←『小学社会　6』教科書 p.252-253

「公民」の「**終章　私たちが未来の社会を築く**」では、小学校と中学校の９年間の学習の集大成として、持続可能な未来を築いていくための**【私の提案】**を形にして発表する活動を掲載しています。



『中学社会　公民』教科書 p.228-233

◆主権者としての意識を高める ～小➡中そして「公共」へ

「終章」の最後では、卒業後も他者との対話を続けていく必要性を記しています。実際に他者と協働する中で、**主権者として**社会に関わっていくための意識を高めることは、さらに公民的資質を培っていく高校の「公共」の学習にもつながっていきます。

↓『中学社会　公民』教科書 p.234

授業でのワンポイント活用

ステップ4　自治体に提言しよう　～プレゼンテーションする

• パソコンなどの情報機器を活用して動画やスライドショーを交えた資料を作成する，模造紙を使ってグラフなどの図表を交えたポスターにまとめるなど，効果的な表現方法でアイデアを提言しましょう。

• 「地域の現状」→「現状から見える課題」→「課題を解決するための提案」というように順序立てて整理すると，考えがよく伝わります。

①教科書 p.122-123 を参考にステップ４までを、グループで取り組む。

②プレゼンテーションは、「地域の現状」→「現状から見える課題」→「課題を解決するための提案」の最後に「解決後の状況」を加えると、より効果的になる。

③地域のオンブズマンがいる場合は、その方に依頼して、提案の勧告や自治体の広報誌などへの掲載をお願いする。他にも「行政相談員」などへの相談や、最近では各市町村の首長へ直接提案できる場面もあるので、適宜各自治体の状況について確認する。

（『中学社会　公民』教科書 p.122-123）

公民

実践例 01

■「憲法ってなんだろう？ ～『法の下の平等』を中心に考える」

「憲法ってなんだろう？」という問いかけをもとに学習を進めていく。基本事項として、憲法の定義や三原則「国民主権、基本的人権の尊重、平和主義」は教科書（本稿では教育出版 令和２年度版『小学社会　6』）を使っておさえておく。その上で、教科書 p.18 の資料ア「日本国憲法に定められている国民の権利と義務」の挿絵を使って、基本的人権について具体的に確認していく。そして、挿絵の中から「法の下の平等」に注目させる。挿絵には男女の児童が描かれていることをとらえさせ、男女の平等について具体的に追究していくための意識づけを行う。

「今の社会は、男女が平等になっているだろうか」という学習課題のもと、地域に出かけて調査活動をしたり、市役所の担当部署の方から話を聞いたりするなど、具体的な事例を通して学習を深めていく。

最後にクラスの友だちと、感じたことや考えたことを話し合い、共有し合う活動を通して自分の考えをまとめる。学区内の小・中学校の教員どうしが連携し合えるならば、このまとめを本人、教師の双方が保存して、中学３年の学習時に再度参照するとよい。単に「よくわかった」だけではなく、自分なりの学びを振り返り、学習が深まったという実感とともに、自発的な問題意識をもって学習を締めくくることができるであろう。

実践例 02

■「ともに生きる社会を考えよう！ ～男女共同参画社会を切り口に」

中学校では、小学校の時に芽生えた生徒たちの問題意識を、多彩な資料を活用しながらさらに発展させていく。「男女共同参画社会」という言葉は、小学校の時に市役所の担当者などから聞いてはいるが、そうした言葉が生まれる日本の社会的、時代的な背景について生徒たちは理解していない。これを理解するためには、戦前までの社会観を探る必要がある。また、戦後も遅々として進まなかった改善が、いくつかの節目で「法整備」されることで、一気に変化していく様子もとらえさせていきたい（ここに法教育の重要性がある）。

最後に、今の社会におけるさまざまな課題を具体的にとらえたところで、これからの社会のあり方をみんなで話し合う場を設ける。人権については、たゆまざる努力が重要であることをまとめとして、自分はどうするかという視点で、小・中学校の学習のまとめとしたい。

まっぴんぐま
からのお知らせ！

フォトまっぴんぐサイトへの
投稿をお待ちしています！
ご応募はこちらから→

今後も役立つ情報をお届けしていきます。
ぜひご注目ください！

教育出版
中学校社会の
ウェブサイト！

教育出版株式会社
〒135-0063　東京都江東区有明 3-4-10　TFT ビル西館　　TEL：03-5579-6278（代表）

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配布を許可されているものです。